

第8回「安曇野百選プロジェクト」会議概要

と き：平成21年5月11日（月）18：30～20：30

ところ：市民活動センター2階南会議室

【敬称は略させていただきます】

出席者：宮崎崇徳、田村恵子、岡江 正、石田勝啓、場々洋介、宗像 章、等々力秀和、横田耕太郎、古畑昭光、
望月 彰、鈴木研一、木船潤一、島田宗彦、城取信久

事務局：宮澤万茂留、高野貴史

1 開 会（田村）

2 リーダーあいさつ（宮崎）

※三角島ふるさとの森プロジェクトイベントについて

（場々）5月31日にロータリークラブが主催で三角島イベントを開催する。子どもを主体とした
い。20組程度予定している。

※屋敷林と歴史的まちなみプロジェクトについて

（場々）今秋に屋敷林サミットを開催する。6月14日（日）に砺波平野の屋敷林見学などを計画
している。参加していただきたい。

3 議 事

（1）ウォークラリーの開催について

（宮崎）8月8日（土）に開催したい。内容説明。

（等々力）ワークショップのポイントの位置づけを明確にしていく必要がある。

（宮崎）子ども主体なので議論形式でなく、どこを歩いたか、何の写真を撮ったか、どんな感想
を持ったのかなど書き入れてもらう。

（鈴木）8月はとても暑く2時間のウォークは大変である。それからさらに2時間のワークショ
ップはつらいと思う。すべてのポイントを回らせるか。

（宮崎）すべて回る必要はない。

（鈴木）ウォークは1時間半くらいでどうか。全体的に早めてもよい。

（宗像）子どもの遊びが足りない。

（宮崎）ぬかくどの紙芝居もやるが、もっと遊びを取り入れたい。

（木船）自由研究はどんな仕組みなのか。

（宮崎）自由研究のためのワークショップではない。歩いたことのまとめをしていただく。それ
が利用できればという程度のもの。

（木船）学校への連絡はするのか。

（宮崎）してもいいけれど20組程度なのでいっぱいになってしまう。

（等々力）すべてを回るのでなく最低何箇所は回ってもらうようにしたら。

（宮崎）テーマを設けてもよい。

（横田）3グループに分けてテーマごとに回ってもよい。

（田村）歩くのは大変である。ポイントで説明をしっかりとやって、給水ポイントで楽しめ
るようにしたらどうか。みんなで飯田地区はどんな場所だったのかキャッチコピーを考えて
もらってもよい。

（宮崎）子ども興味を抱かせる説明が必要になる。

(木船) 子どもに興味を持たせるため宝探しや競争させることはどうか。物で釣るようではない。

(宮崎) 遊びの要素は大切なこと。

(木船) 写真の印刷はセンターの中で行うのか。

(宮崎) その予定である。

(鈴木) メモリーカードリーダーが必要になる。

(木船) プリンターも3台くらいは必要である。

(宗像) 残った写真を持ち帰ってもらうようにしたらよい。

(古畑) 本日のベストショット的に持ち帰ればよい。

(宮崎) 再度検討し、次回に提案していく。

4 グループ討議

【全体グループ】

(宮崎) 前回(第7回)のプロジェクト会議の中で出された全体グループの進め方(案)について復習。(第7回会議資料「安曇野百選プロジェクトの進め方(案)」を参照)

(宮崎) グループリーダーの選出については、出来る限りプロジェクトリーダー及びサブリーダーを除いた方からの選出をお願いしたい。

※グループリーダー 木船潤一

(木船) これまでのプロジェクト会議経過及び2つのグループ(全体グループ・地域グループ)に分けた経過を説明。全体グループの今後のアプローチについては、環境・景観を基本にした上で自然、食、歴史、文化等安曇野全体を捉えた中である程度テーマを絞って決めていく必要がある。

(宮崎) これまでのプロジェクトの議論の中である程度意見は出し尽くされている。この中でアイデアは出されているので全体グループとしてはこれを効果的に結び付ける等といった仕組みを考えていく。また、全体グループとして何を目指し、どのように進めるのかを考えていく。全体グループは安曇野市全体を対象に捉えた中で分野から積み上げていくことが必要になる。そして、このプロジェクトの取組みを知ってもらう為にどのように進めていくのか。この為のデータ収集をどのように進めていくのか。

(木船) 今日の討議では、全体グループは何を今年度の目標としていくのかを考えていく。

(宮崎) 今年度の取組みとして、前回会議の中で出された3つの取組み、風景コンテスト・オープンガーデン・景観賞の中でどれに取り組むか。

(鈴木) 既存資料の中で、風景・景観の特徴的なものを調べてみる必要がある。また具体的な取組みとしては写真コンテストを行う。

(岡江) 写真コンテストについては場合によっては写真関連団体等の協力を得ることも考えられる。

(横田) まず第1段階としては一般の方に自分の地域以外の他の地域の風景に興味を持ってもらうこと。これにより風景に絡めた歴史・文化等にも興味を持ってもらう仕組みづくりをする。

(鈴木) 作った冊子やコンテストをどのようにアピールするのかを考えることが大切である。

(城取) 市商工会の青年部では、景観・風景のコンテストをしてこのコンテストで選ばれた素材をシールにしてEH酒造(株)のラベルにしているという記事を見たことがある。

(木船) 次に繋がる取組みや同じような取組みをしている団体等の取組みに便乗するということも大切である。

(望月)「自慢の常念コンテスト」というものもある。

(宮崎) コンテストを行い公募するということになるとある程度具体的なテーマに絞っていく必要がある。

(木船) 同じような取組みをもうすでに行っている他のプロジェクトや団体等がある。このプロジェクトだけで全てのことをしようとするのではなく、このプロジェクトの役割は同じ取組みがされているものをひとつにまとめ、広く周知していくことになる。

(宮崎) 同じ取組みがそれぞれ行われている中でこれが広まらないのには何か理由があるはず。それを考えこのプロジェクトでは広めていく。

(岡江) どの取組みを一過性のものであり持続性がない。持続させるには一般の人に魅力を持たせることが大切である。例えば、写真コンテストで著名人に評価してもらおう・写真コンテストにおいてエプソンのプリンタのタイアップを得る・有名なピアニストにレッスンしてもらおうといったようなこと。地道にやることも大切だが、魅力をもたせるための場を用意する仕掛けが必要になる。

(木船) やりがいを持たせることは大切である。今年度の具体的な取組みとなるとどうなるか。

(岡江) 今年度ということになると、カメラは広く普及し今は携帯電話でも写真が撮れるので一般的で誰でも取組み易い。

(木船) カメラは確かに受け入れ易い。

(宮崎) 受け入れ易いからこそ色々の団体で取り組まれている。このプロジェクトでは他でも取り組まれている内容をまとめるのか、それとも他の団体に無い新たな取組みをしていくのか。

(岡江) このプロジェクトに行政が関わっていることで、他では呼べない人を呼ぶことが出来るということもある。

(木船) まずは他で取り組まれている内容を調べる。その後に著名人に声を掛けることを考えてみる。

(宮崎) 今までに無い新たな取組みをするということになれば今年度中に行うという訳にはいかない。

(岡江) 取組みには季節も関係してくる。

(宮崎) 今年度は風景コンテスト・オープンガーデン・景観賞の中でどれに取り組むか。

(木船) オープンガーデンはどのような内容になるのか。

(宮崎) 現在は松本と小布施で取り組まれている。松本と小布施ではそれぞれ主旨が異なっており、松本は個人の庭を対象としていて市民に対する緑化啓発の意味合いがある。また小布施は観光としての意味合いが強く、ともに冊子にまとめてあり審査まではしていない。安曇野の場合は屋敷林を含めた形も考えられる。

(岡江) 屋敷林と絡めるということになれば個人のお宅をずっとオープンにするということは難しいと思うので、今年の秋に予定されている屋敷林サミットに絡めるなどある程度期間を決めて行う必要がある。

(木船) これまでの話の中でも出されているようにやはりこのオープンガーデンについても既存の取組みを調べるということになる。

(木船) 景観賞についてはどうか。

(宮崎) 旧穂高町時代にはあった。主に建築物が中心のものであった。

(望月) 松本市にもあるがやはりこちらも建築物が中心で基本的には新築が対象である。

(岡江) 安曇野市全体を捉えた中で目指すべきビジョンは何か。

(横田) 目指すことは広く一般の方に安曇野の景観・風景に興味を持ってもらうこと。既存商店

街の状況をみれば地元でお祭りを行っているのにこれに便乗して儲けようという気持ちになっていない。このプロジェクトで行うことは仕掛けづくりということになる。

(岡江) このプロジェクトとして取り組むべきことは景観ということではないか。先ほどから出ている歴史・文化・食ということも含めてということになると範囲が広すぎてまとまらないといった恐れがある。

(宮崎) 基本は景観である。百選はあくまで手段である。他で出来る取組みでなくこのプロジェクトとしては既存の取組みをうまく繋げる仕掛けづくりを考える。景観の捉え方は個人個人それぞれ違う。そこでキーワードになるのが「人」である。

(望月) ウォッチングをしていてもそうだが風景を見ることで自然と歴史・文化といったものが付いてくる。結局これを知らないと始まらない。

(宮崎) これまでの討議より、安曇野の景観賞の場合は新しいものを評価するのではなく、既存のものを評価することが大切である。

(望月) 松本の景観賞は新築が対象となるが、蔵風の建築物を建てれば賞がもらえるという話がある。

(岡江) 評価する人がそういう人だからそうになってしまう。

(岡江) ここのビューポイントへ行けばこんな写真が撮れるんだということを冊子等形を出していけばその後の継続に繋がる。

(木船) 風景コンテスト・オープンガーデン・景観賞の中でどれに今年度取り組むか。これには市民が広く参加できる取組みであることが大切である。そうするとオープンガーデンはある程度対象者が限定されてしまうので今年度の取組みは風景コンテストと景観賞ということになる。目的は市民が周りのことに関心を持つこと。これに繋がる取組みであることが大切である。この為にまずは既存の取組み状況を調べる。そしてこの調査を基に目的達成の為に仕組みづくりをする。このプロジェクト(全体グループ)で行うことは他に無い独自の活動をするのではなく他の取組みを繋げる活動となる。

(木船) 次回の会議までに期間があるので次回の会議までに風景コンテスト・オープンガーデン・景観賞の3つについて既存の取組み等の資料を集めることとしたい。

※次回会議までに行う全体グループにおける調査担当

各担当者がそれぞれの既存の取組み等について調べる。

オープンガーデン…宮崎

風景コンテスト…鈴木・横田

景観賞…望月・岡江

【地域グループ】

(場々) 全体と地域の違いは何か。

(事務局：宮澤) 全体は全市的な視野で捉え、地域はモデル的に小さい単位でワークショップやウォーキングなどを実施し百選としてのデータをまとめていく。また、様々な市民活動団体や地区公民館、育成会などと連携を図っていく。全地区は難しいのでモデルケースを作り、各地区でそのモデルケースを基に活動ができる仕組みづくりがこのプロジェクトの使命となる。

(古畑) 地域が活動できるフォーマットを作っていく。

(等々力) 現在方言や昔の遊びの資料を集めている。ことわざや言い伝えなども面白い。

(宗像) お祭りを見ると、この地域に船が出るところが多い。

(田村) おばあちゃんたちと醤油を作った。おばあちゃん同士の会話がほとんどわからなかった。

お茶に漬物が出た。お茶の文化である。

(古畑) 歴史、文化、言葉も宝である。再発見して発信していければ。大人と子どもが選ぶものは違う。大人マップ、子どもマップがあってもいい。おばあちゃんの言葉マップも。

(等々力) 祖父母がいる家庭に育つ子どもと、いない家庭の子では違う。

(宗像) 祖父母のいる家庭の子は箸が持てる。食べ物の好き嫌いも少ない。景色だけの百選ではいけない。

(等々力) 熊倉区と連携していってもよい。

(石田) 熊倉の歴史の本を 3,000 円で買った。真々部でも作っている。熊倉にはよいリーダーがいた。

(等々力) どこでもそういうリーダー的存在が高齢になってしまった。もう限度である。

(宗像) 歴史、行事、人がテーマになるか。我が家の宝物を出してもらってもよい。

(古畑) 出してもらうものすべてに思い出がなければいけない。

(場々) 各地区で行っている文化祭は個人の作品を展示しているが、地域のお宝を出す文化祭があってもよい。

(事務局：宮澤) 小さな単位のモデル地区を絞って掘り下げること考えられるが、テーマを絞れば全市的な情報を得ることもできる。

(等々力) 祭りを考えてもよい。

(場々) 祭りを並べてもいろんなものがある。

(田村) テーマは「祭り」としてよいか。

※全員異議なし

(田村) 高齢者の方から話を聞いていきたい。

(事務局：宮澤) 全区の祭りを調べて、その後さらに小さな木戸単位の道祖神祭りなどを調べていければよい。

(田村) リーダー、サブリーダーを決めたい。

※グループリーダー 等々力秀和、グループサブリーダー 宗像 章、古畑昭光

5 全体会

(1) グループの報告について

(2) 今後の日程について

※次回は 6 月 2 日 (火) 午後 6 時 30 分からくるりん広場 2 階南会議室において開催する。

6 閉 会

